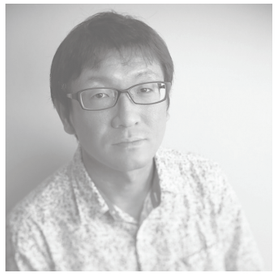
関連企画

＜演じる高校生＞アフタートーク



ゲスト：劇作家・演出家　**林 慎一郎**

1977 年 北海道・函館市生まれ。現在大阪府在住。京都大学総合人間学部卒業。大学在学中に演劇活動を開始。2004 年、伊丹想流私塾にて北村想に劇作を師事。2007 年、公演ごとに俳優を集める個人プロデュース「極東退屈道場」を立ち上げる。2011 年、『サブウェイ』で、第 18 回 OMS 戯曲賞大賞を受賞し、以降、2 年に渡り再演を続け、「列島縦断延伸ツアー」と称し、全国の地下鉄保有 5 都市（札幌、仙台、東京、大阪、福岡）にて上演する。
2013 年、『タイムズ』で、第 20 回 OMS 戯曲賞特別賞を受賞し、佐藤信演出により再演する。
2016 年、『PORTAL』（演出：松本雄吉・劇団維新派）で、第 61 回岸田國士戯曲賞候補。「都市」を題材に、膨大なモノローグと映像やダンスを用いた「報告劇」を立ち上げており、都市に対するその独特な切り口と、都市生活者たちの人物造形が特徴。劇作家として、他の演出家との作業も積極的に行なっている。また大阪市立咲くやこの花高校演劇科講師も務め、劇作家・演出家としての活動の他、劇場主催の演劇ワークショップなどの講師も多数務める。

主な作・演出作品　＜極東退屈道場＞
『延髄がギリです。』（2007 年、第 25 回名古屋市文化振興賞候補）
『サブウェイ』（2010 年、第 18 回 OMS 戯曲賞大賞）
『タイムズ』（2012 年、第 20 回 OMS 戯曲賞特別賞）
『ガベコレ』（2015 年、第 15 回 AAF 戯曲賞候補）
『PORTAL』（2016 年、第 61 回岸田國士戯曲賞候補）

春秋座は多彩なラインナップで皆さまをお迎えします！

京都芸術劇場 春秋座
京都市左京区北白川瓜生山2-116　京都芸術大学内

劇場公式 SNS
劇場の最新情報、日常、舞台裏 etc...

〈京都芸術大学　舞台芸術研究センター〉

舞台：大野淳一郎　　プロデューサー：井出 亮
照明：小山陽美　　制作：後藤孝典
音響：才木美里　　制作助手：平川博理、出尾美貴

高校演劇コンクール近畿大会優秀校　第22回「春秋座」招待公演

演じる高校生

2023 年 1 月 29 日［日］ 14：00 開演

上演校　滝川第二高等学校（兵庫）　大阪府立岸和田高等学校

主催：近畿高等学校演劇協議会／京都芸術大学 舞台芸術研究センター
後援：京都市教育委員会／京都新聞

京都芸術劇場
春秋座

ご挨拶

春秋座招待公演「演じる高校生」に寄せて

いよいよ、近畿高等学校演劇協議会に加盟する２４４校の中から選出された優秀校２校による「演じる高校生」２２回目の上演が始まります。

ここ数年、世情はコロナ禍により、様々な大会や行事が中止や延期を余儀なくされました。特に舞台が主となる演劇はかなりの“密”を伴うため、これまでの道程は今まで以上に厳しく、険しいものであったと推察します。幾多の困難を乗り越え、近畿大会を経て、漸くここに辿り着かれたことは感慨一入です。

さて、毎年春秋座の檜舞台で上演させていただけることは、この上ない喜びです。関係各位の皆様方に心より感謝申しあげます。

そもそも演劇は、演者のみならず、脚本、演出、音響、照明など多岐にわたる者たちが結集して作り上げる総合芸術だと感じています。互いの才能を認め合い、切磋琢磨しながら、各自が役割をわきまえ、思いを一にして繰り広げる舞台は、常に観客にワクワク感・ドキドキ感を抱かせてくれます。この感情こそが、今の世情が求めているものではないでしょうか。栄えある春秋座の舞台に立たれる２校の皆さん、これまでの思いを胸に、感謝の心を忘れず、決して失敗を恐れることなく、躍動感に満ちたエネルギッシュなパフォーマンスを期待しています。

結びに、演劇に携わるすべての高校生たちが日頃の練習を積み重ねる中で演劇の技術を修得するとともに、心身ともに健やかに成長することを願ってやみません。

近畿高等学校演劇協議会
会長　**森　勝博**

不安の裏を返せば

今回上演される二つの作品には将来に対する「不安」が共通して描かれています。
この先どうなっていくのか、やり直すことはできるのか。

「地下アイドル」「リセットマラソン」といった、『演じる高校生』が 2002 年に始まった時にはおそらくはまだ存在しなかった言葉たちの影に見え隠れするものがありそうです。

日常が脅かされる不安を身近で感じることの多いこの数年間を過ごしてきた高校生たち。その身体が発する表現を、目の前の舞台で観ること、聞くことができるのは、とても貴重な機会です。高校生たちのかけがえのない日常とその不安の裏を返せば、きっと「希望ある未来」が見えてきます。「今どきの若い者は…」なんて常套句はどこか遠くに置いて、かつての自分を重ねながら本番を楽しみたいと思います。

本日のアフタートークには劇作家、演出家の林慎一郎さんをお迎えし、当舞台芸術研究センター長・安藤善隆、上演校の高校生とともに上演を振り返り、演劇の魅力について語り合います。

最後までごゆっくりお楽しみください。

京都芸術劇場／京都芸術大学 舞台芸術研究センター
プロデューサー　**井出 亮**

上演校

大阪府立岸和田高等学校　『オドリ・バリデ・ジュー』

作：鈴木研太　補作：井原一葉

大阪万博応援アイドルオーディション開催！日々稽古して振り付けも考えて、これは合格間違いなし！っていう、内容の劇で我々演劇部は大会に挑もうとしていた。しかし部長は筆が進まず部員は遊んでばっかでどうしよう。みたいな、お芝居もオーディションで披露するのはどうかな！審査員もやる気を認めてくれるはず！って、そんなに上手くはいかないか。私たちがいるのは地下かな、それとも、地底かな。地上も空も宇宙も別世界。それでもこの場所で、この人たちとやりたいって思うのは、どうしてなんだろう。

キャスト
帆波（ほなみ）：井原一葉（２年）
杏奈（あんな）：上原里緒（２年）
千紘（ちひろ）：戸山まこ（１年）
菫（すみれ）：大石咲恵（１年）
ジャガーさん／審査員［声］：塩谷 太志（３年）

スタッフ
音響：水津璃音（２年）桶谷健生（１年）
照明：川端一矢（２年）大成一維（顧問）
舞台・制作補助：本井萌花（２年）邨田玲彩（２年）

滝川第二高等学校（兵庫）『リセマ達』　作：いぐりんとその仲間達

皆さんは“リセマラ”という言葉をご存じでしょうか？
「リセマラ」とは「リセットマラソン」の略称で、ゲームを始めるときに引く無料ガチャで『より強いキャラを当てることができるまでリセットを繰り返す』ことを表すゲーム用語です。今回上演させていただく「リセマ達」は、このリセマラが題材となっています。「過去」や「今」があるからこそ、「明日」がある・・・。皆様に「今を生きる大切さ」や「失敗や後悔を超えて“明日”に踏み出す勇気」をお届けできたら嬉しいです。

キャスト
木下紗月（サツキ）：藤本あかり（２年）　安達翠（ミドリ）：足立翠（１年）　佐倉井滉人（サクライ）：櫻井滉人（１年）
井上優太（ユウタ）：福山垂斗（２年）　吹島百笑（モモエ）：福島百笑（１年）　葉鳥圭珠（ハトリ）：羽鳥圭珠（１年）
大幡果穂（カホ）：大畑果穂（２年）　松浦圭純（カスミ）：松村圭純（１年）　富久田哲雄（フクダ）：福田哲雄（１年）
志々田蒼馬（シシダ）：宍田蒼馬（２年）　小澤太洋（オザワ）：男澤太洋（１年）　吉本先生：吉本百梨（１年）
喜多島果実（カサネ）：北島果実（２年）　高埜泰一（タカノ）：高野泰一（１年）　壬生先生：壬生大宇（２年）
谷山青樺（ハルカ）：谷青樺（２年）　有光誠（アリミツ）：有満誠（１年）　近野楽菜（ラナ）：今野楽菜（２年）
渋川佳音里（カオリ）：澁谷佳音里（２年）

スタッフ
演出：いぐりんとその仲間達　スタッフ統括：鴨志田彩羽（３年）　舞台監督：北島果実（２年）
舞台：堅田悠斗（中学２年）森脇晴子（中学２年）吉田萌乃（中学２年）藤林枇愛（中学１年）
音響：河村佳歩（１年）谷村茉莉花（１年）都留綾乃（３年）高瀬朋香（中学２年）倉本泰我（中学２年）
照明：山高京香（中学３年）吉田結梨（中学２年）川本朱音（中学２年）

※掲載は上演順

宣伝美術：**小谷涼奈**（京都芸術デザイン専門学校 コミックイラストコース２年生）

今回の宣伝美術は学校法人瓜生山学園（京都芸術大学・京都芸術デザイン専門学校・京都文化日本語学校・京都芸術大学附属高等学校）から公募し、選ばれたデザインです。
劇場ホワイエにて採用作品および優秀作品を展示いたします。ぜひご覧ください。